

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	摂津市立つくし園		
○保護者評価実施期間	令7年4月1日		～ 令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	80	(回答者数) 66
○従業者評価実施期間	令7年4月1日		～ 令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令8年4月1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種で連携し専門的支援を実施している。</li> <li>職員の協力体制を整えチームでの支援をしている。</li> <li>府の訪問支援を受けている。</li> <li>ペア・トレーニングの実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者だけでなく、多職種で連携を図り総合的に児童・保護者を捉えるようにしている。</li> <li>朝礼・終礼・振り返りの場、また定例会議等の機会を通して、職員が相談しやすい環境を整えている。</li> <li>職員の資質向上のため様々な取り組みを積極的に取り入れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種での連携・協働システムを構築、強化に向けて、取り組み、見直し検討していく。</li> <li>日々の振り返り、ケース会議等を行い、職員が相談しやすい環境を整えている。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な個別面談・療育終了後の振り返り等、保護者相談・家族支援を行っている。</li> <li>きょうだい児が来園しやすい環境を整えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子通園、定期的な個別面談等で相談しやすい環境を設定している。また、保護者の変化等を職員で把握し、随時面談時間等を設けている。</li> <li>来園したきょうだい児も主体的に過ごすことができる環境を整えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内で実施している家族支援プログラム「トリプルP」を継続すると共に、より市民が参加しやすい方法を検討する。</li> <li>きょうだい児支援のプログラムの実施に向けて検討を行う。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各関係機関と連携を深めながら事業を行っている。</li> <li>卒・就園児のフォローを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関と連携を図る必要性を、各職員が理解している。(連携を図る事で、児童及び家族を総合的に支援することが出来る。)</li> <li>個別訓練終了後も相談の連絡があれば随時対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員ひとり一人が意識をもって関係機関との連携および関係作りを今後も行っていく。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>築44年が経ち施設の修繕が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の清掃は丁寧に行っているが、施設の築年数により劣化が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修繕が可能な個所は速やかに実施する。</li> <li>修繕、改修個所に優先順位をつけて実施する。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域交流の機会が少ない。</li> <li>(令和7年度は夕涼み会コンサートに近隣の方を招待)</li> <li>ボランティアの受け入れが困難。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>摂津市立こども園との交流を計画していたが、こども園の建て替え等により具体化することができなかった。</li> <li>コロナ禍でボランティアの受け入れを中断し、その後再開に至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夕涼み会コンサートに近隣の方の招待を継続し、今後の活動について検討する機会とする。</li> <li>第2児童センターとの連携、交流を基盤に、地域のこども園等との交流の機会を広げて行く。</li> <li>行事のボランティアを地域の大学生に依頼するなどし、ボランティア受け入れ体制の構築に取り組む。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の経験の差、立場により、事業内容、支援内容等について意識の差が生じることもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待についての職員アンケートの結果として、身体拘束等について職員の意識の差があるのではないかと意見があった。</li> <li>事業内容・支援内容等についてチームで取り組む機会を増やすことが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き職員研修、勉強会を行い、職員全員で知識を深め、意識の統一、支援力の向上に努める。</li> <li>日々の支援を振り替える機会を必ず持ち、意見交換および自分自身の支援を見直す機会とする。</li> <li>大阪府発達障がい者支援センターのコンサルテーションを継続して受け、支援力の向上に努める。</li> </ul>